

金で、カンボジアの小学校の校舎を建てようという事業を始めた。インターンシップ（就業体験）の学生も加わり、企業に協力を呼びかけている。

オフィス用品販売会社「カスタネット」（南区）が、企業や家庭から回収したレーザープリンターの使用済みトナーカートリッジをリサイクル業者に売って得た収益



事業計画を練る植木力社長（奥）と立命館大の学生＝南区の「カスタネット」で

カンボジアに 小学校建設を

同社は文房具を扱っていることが縁で、02年3月から、カンボジアの小学生にノートやボールペンなど中古文房具を送る活動を続けている。

今年3月、植木力社長（45）がカンボジアを訪ね、プノンペン（北約100キロ）のトレア村にあるトレア小学校（児童数420人）では、古い木造校舎と茅葺きの校舎で子どもたちが勉強しているのを見た。トイレもなく、今にも壊れそうな校舎を見て、新しい校舎をつくらなければならないと思っただ、という。

帰国後、レーザープリンターの使用済みトナーカートリッジを企業から無料で回収し、リサイクル業者に売却する、という事業を始め、社会貢献にも参加できる利点がある」と植木社長は言う。

8月からインターンシップで同社に来ている立命館大3回生の学生4人も参加。市内の企業を回り、パンフレットを配るなどして理解を求めている。木村綾子さん（21）は「就業体験だけでなく、社会を知ること

南区の企業「カスタネット」リサイクル収益金で



カンボジア・トレア村のトレア小学校の茅葺き校舎（いずれもカスタネット提供）

もできる」と話す。トナーカートリッジは1本50～250円で売れる。収益金は東南アジアで農業支援などの援助活動をしている「国際開発救済財団」に寄付。6教室1棟の校舎を建てるには約350万円かかるという、来年9月ごろまでに目標額を達成し、05年度ごろには完成させたいとしている。植木社長は「社会貢献がビジネスにもつながることを多くの企業に知ってもらいたい」と話している。トナーカートリッジは2個以上なら、無料で出向いて引き取るという。問い合わせは同社（075・681・9100）へ。

就業体験学生も協力